

令和6年度

竹の里教育 学校経営方針

なりたい自分になる

誰よりも情熱と高い志をもち

挑戦と生きていく

何度だって熱くなれ

起こせ 時代の新しい風を

誰でもない 自分だけの道を！

誇れる自分になるために

よりよい自分になるために

なりたい自分になるために

学校教育目標

一人一人の人間性を高め 共に学び合い 希望を抱いて未来を拓く子ども

～誇れる自分になるために なりたい自分になるために～



京都市立 竹の里小学校

一人一人の人間性を高め

共に学び合い

希望を抱いて未来を拓く子ども

こんな学校を



- ◆自らの生活をよりよくするために、正しい判断と行動ができる。
- ◆自らの学びを自覚しさらなる学びにつなげる。

- ◆他者への思いやりや寛容、人と人との絆の大切さを実感する。
- ◆あらゆる教育活動において、多様な他者と関わり学び合う。

- ◆洛西陵明小中学校に向け、広い視野と豊かな感性をもつ。
- ◆子どもたちの個性が響き合い、生き生きと輝く社会を創造していく。

めざします!



めざす子ども像

- 将来の自分を想い、夢をもち、その実現に向けひたむきに努力する子
- 見通しをもちながら粘り強く学び続ける子
- お互いのよさを認め合い、仲間と共に高め合おうとする子
- 自分の学びを振り返り、さらなる学びにつなげ、学びの広がりや深まりを自覚できる子

めざす学校像

- 地域・保護者・子ども教職員みんなが信頼し合い、みんなが愛着をもっている学校
 - 一人一人の教職員が、自らの専門性を生かして教育を推進する学校
 - 全教職員が自校の課題を共通理解し、同僚性を高め、組織的に進める学校
- ～チーム竹の里～
- 保護者が「通わせたい学校」子どもが「学びたい学校」地域が「誇りのもてる学校」教職員が「自慢できる学校」

めざす教職員像

- 自分の言葉で竹の里教育を語る教職員
- 子ども・学校・地域を愛し、教育者としての自覚や使命をもつ教職員
- 力量を高めるため、常に努力・自己研鑽に励み、互いに切磋琢磨にて高め合う教職員
- 常に教育の新しい流れをつかむ先見性を持ち、学校教育に全力に傾注する教職員



ラストステージの今年度 竹の里教育の特色をさらに充実・発展

竹のように まっすぐに しなやかに つながって

里山にある学校

自然と都市との中間にあって、美しい風景とさまざまな生き物が共生する環境が広がる里山。

私たちの学校は、京都西山のふもとに広がる里山にあります。里山の豊かな自然を守り、優れた文化を受け継ぐための、子どもたちの確かな学びが、グローバルで持続可能な、よりよい未来社会をつくる力へとつながります。



地域に学ぶ・地球に学ぶ
人に学ぶ

地域素材を教材にして
豊かで多様な自然や
人と社会の温かいつながりを学び
地域への誇りと
未来を切り拓く力を育てる



Satoyama
Landscape
里山の景観・文化

新しい知識を創る力

情報を活用しながら
思考を深め
新しい知識を
創り出す力



地域を誇り
地域を愛する

問題を解決する力

自然や社会にある
さまざまな問題を発見し
他者と協働しながら
解決に向かい追究する力

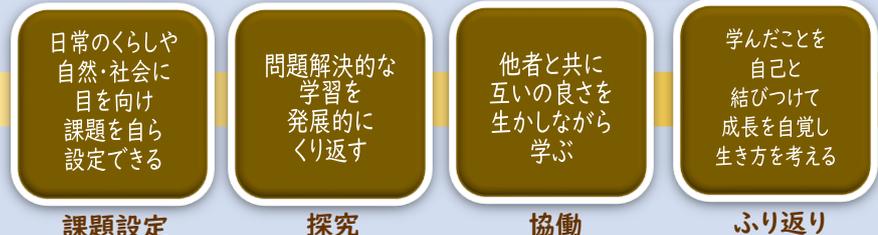


さとやま生活科
生活科の時間

さとやま未来科
総合的な学習の時間



四つの学びの視点



進行するグローバル化は、国際社会での相互の関係性を急速に深めています。異なる文化・文明を理解し尊重して、世界の人々と共存・協働する力が、今、求められています。竹の里学校では、子どもたちを豊かな自然と共に生きる持続可能な社会の担い手に育てることをめざす。

知

主体的に学習に向かい
粘り強く取り組む子の育成

確かな学力

育成する力 三つの重点

徳

互いを認め合い
友だちを大切にできる子の育成

豊かな心

体

心身ともに健康な生活を
意識し実践できる子の育成

健やかな体

子どもが学ぶ
授業づくり

学びの質を高める授業改革

- I 学習したことの価値や意義を子ども自ら確認できる授業を展開し、次につながら意欲的な学びを引き出す。
- II ICT を適切に組み合わせ個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させる。

校内研究の充実



知識技能向上
プログラム

朝・昼の帯時間を活用し、知識技能向上に向け、学校全体で授業と連動した取組を徹底して実践する。

里 SATO タイム: 読書 言語能力・言語活用

朝

山 YAMA タイム: 基礎・基本 反復の練習

昼

基礎学力につながる帯時間

家庭学習改善
プログラム

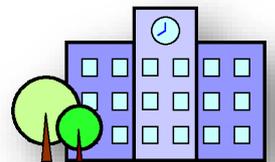
自分自身を客観的に捉え調整できる力を育てるには、学校(教師)の働きかけと家庭の協力は、重要である。やらされる宿題ではなく、「自分は、今この力をつけなければならない」という目的意識をもち、自分から取り組む家庭学習としていく。

子どもが自ら学ぶために「調べ方」「考え方」「まとめ方」など教えるべきことを教え進めていけるよう内容を系統立てる。

生活と学習がつながる家庭学習

非認知能力
を育てる

子どもが、誇れる自分になるために になりたい自分になるためには、「非認知能力」(自己肯定感、道徳心、規範意識、コミュニケーション能力など)を育てることが重要である。そのための取り組みとして、学校行事、児童会活動、学級活動を積極的に実践していく。



現在と未来をつなげる

心を育てる
読書活動の
推進

「めざせ!100冊読書マラソン」を達成できるよう働きかける。教職員や“お話し宝石箱”(PTA 読み聞かせボランティア)による読み聞かせ。子どもたちが思い思いの本を選べる“選書会”の実施。「読書が好きになる」「学習につながる」読書生活を推進する。



学習につながる読書生活